

お笑い、たこ焼き、通天閣…。大阪と言えば、そんなイメージが先行します。街の情景についてもコココテの賑わいを思い浮かべる方が多いでしょう。もちろんそれも素晴らしい文化に違ないです。本来はもっと多様で奥深いもの。例えば水都の象徴「中之島界隈」などは、キタやミナミとはまったく違う表情を醸しています。しかも市民一人ひとりがもう少し気にかけるだけで、今の何倍も素晴らしいものになるはず。そうした思いから誕生したのが「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」です。今回は同実行委員会委員長の寺田千代乃さんにお話を伺いました。

私たち一人ひとりが花を愛し、街を彩って、子ども達のために大阪の未来をバラ色に染めあげましょう

誰もが気軽に参加できる活動として

まずは発足のきっかけから教えてください。

寺田 いまから4年前、「世界バラ会議2006」が大阪で開催されました。これは3年に一度、世界のバラ愛好家達が一堂に会するイベント。しかもアジアでは初めての記念すべき大会でした。バラの気品ある美しさに注目を集め、市民の皆さんもあらためてバラの鑑賞スポットに目を向けたのです。こうした機運が大会終了と同時に養んでしまったのはモッタナイ。そこで当時の市長である關淳一さん、建築家の安藤忠雄さんたちの賛同を得て、06年4月に発足したのが「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」です。

— 活動の目標は何ですか？

寺田 スローガンは「未来の大坂に住む子どもたちのために、美しい大阪を」。一人ひとりが身近な

官と民がお互いに手を取り合って

— 今後の活動予定を教えてください。

寺田 募金活動は09年に、今年の3月には事業 자체が終了しました。しかし、わずかな期間で次につながるカタチあるものを残せたことには満足しています。

私は毎朝早く、一頭のワンちゃんを連れて中之島界隈を散歩するのが日課なんですが、「ばら回廊」のある中之島緑道辺りは本当にキレイですよ。花が咲いていない季節でも花壇や周辺がきちんと整備されているのを見ると清々しい気分になります。目立つゴミがあると、思わず拾って片付けることも。

そんな風にバラと接するうちに気づいたのは、話しかけたり、ほめたりしていると、花がますます美しくなること。ですから皆さんも自宅のバラはもちろん、「ばら回廊」にもどんどん足を運び、家族同様に可愛がってもらえば、大阪のバラはもっとイキイキ輝くと思うんです。

— 美しい大阪をつくるには、今後どうすべきだと思いますか。

寺田 大阪はいま、観光都市としても国内外へPRしていますが、そうした意味でも花やみどり

場所でバラを育てるなど、バラを通じて、市民主

体での美しい大阪のまちづくりが狙いです。また100万人の参加」を合言葉としました。今の世の中、「自分が関係しないことは無関心」という風潮が蔓延しています。そこで、わずか100円でも寄付することで、「自分もまちづくりに参加している」との意識を持つ子欲しかったのです。

活動の第一歩は銀行や飲食店、旅行業協会の各店舗イベント会場などの集まる場所で募金活動をスタート。バラが描かれた紙製の募金箱を千個用意し、3年間の予定で募金を呼びかけました。大阪にゆかりのある企業さん、団体さんからも快く協力して頂きましたよ。

— 大阪ならではの温もりを感じますね。

寺田 おかげさまで年末にはバラのシンボルロード「中之島ばら回廊」計画を発表、舞台は大梅・桜の次はバラといつた見せ方を途切れることなく行って欲しい。観光事業の大きなヒントだと思います。

大阪市民は自分の住む街をお笑いのノリも含めて「きちゃない(汚い)」なんて言ふんですが、知らない方は本気でそう思いますからね(笑)。それこそ他府県人に「大阪の名所へ連れて行ってあげる」などと思ふんですね。

の管理にもうとチカラを入れるべきだと思います。風光明媚な水辺や歴史的な名所を背景に、春は梅・桜、その次はバラといつた見せ方を途切れることが多く、行けて欲しい。観光事業の大きなヒントだと思います。

大阪市民は自分の住む街をお笑いのノリも含めて「きちゃない(汚い)」なんて言ふんですが、知らない方は本気でそう思いますからね(笑)。それこそ他府県人に「大阪の名所へ連れて行ってあげる」などと思ふんですね。

— ところで、「自身とバラとのつながりは？」

寺田 私はついこの間まで生駒に住んでいた、たくさんのバラに囲まれていました。そのほとんどが、何かの縁で頂いた鉢を植え替えたもの。バラを眺めるたびに、贈られた時の情景や贈り主さんの顔が思い浮かぶのも楽しいですね。

ローズ・オオサカの植わる「中之島ばら回廊」(中之島緑道)

阪市が管理する中之島緑道(淀屋橋~肥後橋の約400メートル)です。翌年5月には土佐堀川の護

岸沿いにある5カ所の花壇に、世界バラ会議のシンボルとなった「ローズ・オオサカ」など約50種のバラを植樹。その後も、市民募金や企業・団体様からもご協力により、御堂筋の大江橋南詰にバラの植栽をはじめ発光ダイオードを使ったモニュメントの設置や、また京阪電鉄「中之島線」の開通に合わせて、北区中之島遊歩道の渡辺橋駅周辺などにも、バラの植樹を行うことが出来ました。

09年1月には大阪市内の小学校67校にバラの苗を寄贈。北区の市立西天満小学校への贈呈式では、私自身もスコップを握って植樹を行いました。子ども達には自分が植えたバラを育てることで生命の尊さを感じ、周辺の環境についても自然と考えられるようになってほしいですね。都会育ちの子ども達は土に触れることが少ないので、子ども達には自分が植えたバラを育てることで

くるはず。ところが実際にお連れした場所がバラの庭園だったりすると、すごくオシャレなサプリ

ースですよ。ぜひ今こそ官と民が手を取り合い、大阪をバラが咲き誇る街・バラが似合う街にして、子どもたちにバラ色の未来を咲かせましょう!

寺田 千代乃さん
てらだ ちよの

「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」実行委員会 委員長
社団法人 関西経済連合会 副会長
アートコーポレーション株式会社 代表取締役社長

Special Interview

スペシャルインタビュー



「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」
協力企業・団体

アートコーポレーション(株)、大阪市信用金庫、(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会、大阪西ロータリークラブ、大阪ロータリークラブ、がんこフードサービス(株)、協同組合大阪府旅行業協会、京阪電気鉄道(株)、京阪中之島新線工事安全衛生協力会、(株)高島屋、西日本電信電話(株)、りそな銀行(五十音順)



ローズ・オオサカの植わる「中之島ばら回廊」
(中之島緑道)